

備蓄種子の供給について

令和9年産用も麦類種子の安定供給対策として、一部「備蓄種子」を供給します。

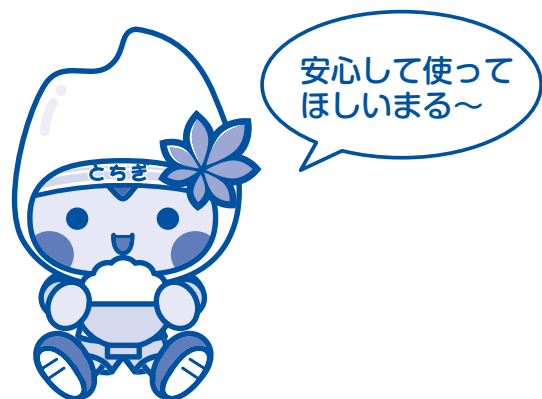
「備蓄種子」は、前年(令和7年)生産された種子を低温倉庫で保管し、供給にあたり発芽試験を実施し、発芽率(80%以上)を確認したものを供給します。

今年生産されたものと発芽率に差はありませんので安心して使用してください。

なお、紙袋には、次のシールが貼付してあります。

低温備蓄種子(発芽試験済)

(公社)栃木県米麦改良協会
JA全農とちぎ



©栃木県 とちまるくん

備蓄種子の供給品種

小麦

さとのそら
イワイノダイチ
ゆめかおり
タマイズミ

二条大麦

ニューサチホゴールデン

六条大麦

シュンライ

- 種子の空袋、生産物確認票は収穫期まで保管しておいてください。
- 高品質安定生産に向けて、裏面の適期播種・排水対策等もご覧ください。

そば対策 (そばアレルギー事故防止のため、次の対策を実施すること。)

- そば一麦の輪作は絶対行わない。
- そば跡への麦の作付けは、一度水田にして作付けする。
- 収穫・乾燥・調製時の「そば」の混入を防ぐため、「そば」とは別の機械や施設を使用するか、作業前に使用する機械等の清掃を徹底する。

麦類の高品質安定生産に向けて

1 適期播種

①基準播種時期：3か月予報等を参考に時期の調整を行う。

県北部：11月1日～15日、県中部：11月6日～20日、県南部：11月10日～25日

②播種量(ドリル播き、10a当たり)

- 小麦(さとのそら、イワイノダイチ、タマイズミ、ゆめかおり)：7～8kg
- 二条大麦 ニューサチホゴールデン、もち絹香：8.5kg、
とちのいぶき：8kg
- 六条大麦(シュンライ)：7kg

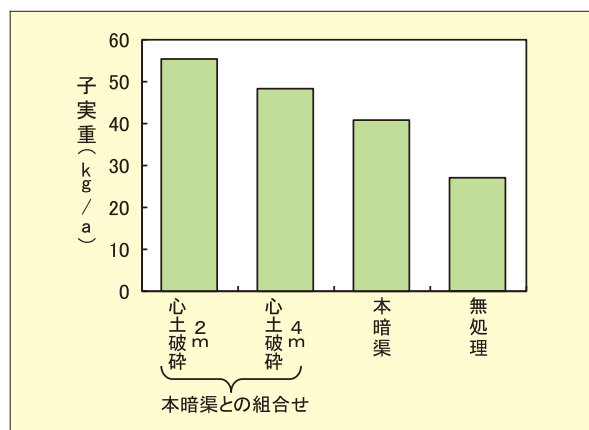
2 排水対策のポイント

①**団地化**：排水良好なほ場に作付けするとともに、地域の話し合いによるほ場の団地化を図る。

②**地表排水**：地表水の早期排除のため、ほ場周囲に排水溝を掘り、排水溝は低く掘り下げ、外部の排水路と繋ぐ。

③**浸透排水**：地下浸透性が著しく劣るほ場では、プラソイラやスタブルカルチ等により心土破碎を行う。

なお、排水対策が不十分なほ場に作付けする場合は、畝立て同時播種栽培を組み合わせる。



排水施工とビール麦収量（栃木農試成績より作図）



大雨後の排水対策有無の比較
左圃場：排水対策無し、右圃場：排水対策有り（明渠＋心土破碎）

3 土づくり

土壌診断に基づく土づくり肥料の施用、良質堆きゅう肥や稲わら等有機物の施用、作土深の確保等総合的に
行い、地力の向上・維持に努める。

①**pH**：5.5以下になると生育不良になるので、播種前に苦土炭カル等を施用し、pH6.5を目標に酸度矯正を行う。

②**りん酸**：リン酸は根の発達や分げつの発生を促進するため、リン酸地力の低い場合は苦土重焼燐等により不足分を施用する。

③**苦土**：苦土が不足すると葉に黄化が生じ、光合成不足となり粒の充実度が悪くなる。
また、苦土欠の状態では、リン酸が十分存在しても麦類が吸収できない。

4 病虫害防除

①**種子消毒による防除**

- ・ベンレート水和剤（斑葉病、なまぐさ黒穂病、はだか黒穂病、条斑病）やホームイ水和剤（斑葉病、なまぐさ黒穂病）などにより種子消毒をする。
- ・発生の多いほ場では連作を避ける。
- ・発病株は速やかに抜き取り適正に処分する。
- ・【斑葉病】晩播ほど発病が多いので、遅播きを避ける。

②**赤かび病防除**

- ・二条大麦は、穂揃期7～10日後が薬剤防除適期
- ・六条大麦は、1回目散布を開花始めに行い、2回目散布は1回目の10日後に行う。
- ・小麦は、1回目散布を開花始めに行い、2回目散布は1回目の20日後に行う。